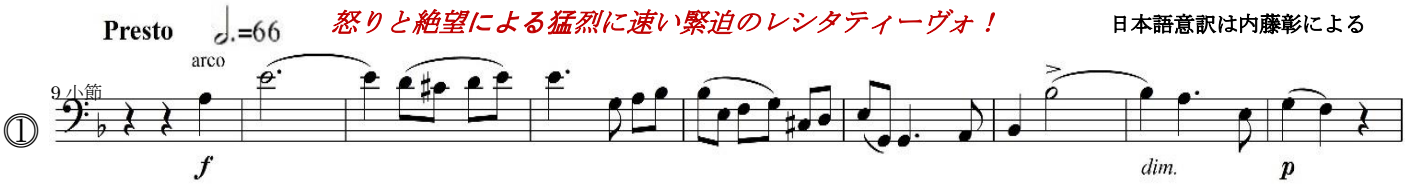
## 【表－1】 Beethoven Symphony No 9, 4th mov. 冒頭 Recitativo の Beethoven *本人作* の歌詞(主張)

注）ベートーフンの書き残した冒頭のレシタティーヴォ(以後 Rec.と記す)用の歌詞(下記原文・独語)には不鮮明な箇所が多い。しかもその歌詞を載せた文献は 2 種あり(ノッテボーム版とダイタース版)、それらの間には多少の差異がある故、箇所によっては文献 2 種を併記し、あるいは括弧で加えた。以後の歌詞(主張)は、すべて 4 楽章作曲前に、彼が試行錯誤していた際スケッチ帳に書き込んだ、冒頭のチェロ・バス用のものであった。しかし最終的にこの交響曲に歌を加える大英断を下した際、それらの**主張**はバリトンの Rec.により直接言葉で主張させることにし、その主張が成就した暁に、シラーの詩の世界に足を踏み入れられるとした。その大改訂の際、冒頭のチェロとバスの Rec.の旋律にも大幅にメスを入れたため、これらの歌詞(主張)は、下記の改定後(現行)の旋律に合わせて彼が直接書き込んだものではない。しかしその**主旨**や**歌詞(主張)の適用順**、**用途は全て同じ**であるが故、これらをイメージして改良されたことは明らかである。故にこれらを知らずして、強烈に速いテンポ指示等彼の真意を表現することは不可能と言えよう。




*怒りと絶望による猛烈に速い緊迫のレシタティーヴォ！*　　日本語意訳は内藤彰による

ダメ だ　一！ **この音** は 我れ我 れ-に- **ぜつぼう**を お も い 一 出 さ せる

Nein diese (Töne) (würde uns) erinnern an unsre **Verzweiflung** ( voll ) stand.

● **"この音"；冒頭**(8 小節間)**の、**(**絶望の**)**ファンファーレのこと**(後にバリトンの Rec.により diese Töne と歌われる)

① ベートーフンはその当時、フランス革命で失脚したはずの特権階級層の復権、そしてそれに伴う自由の剥奪や近隣諸国で頻発する数々の戦争等、彼が絶望的と感じた当時の政治の流れを、4 楽章冒頭の、敢えて憎々しく汚い音で書かれた(ベートーフン談)**ファンファーレの音**に例え、憎々しい**"この(絶望的)音"** と称して、次(9 小節～)からのチェロとコントラバスの **Rec.**に"絶望"の言葉を用い(上記楽譜)、怒りを持って**極めて速いテンポで演奏させることにより上記絶望的政治の流れを強烈に拒絶した！** (ベートーフン自身が♩.=66 という極めて速いテンポを楽譜に指定し、そのテンポを絶対に守るようにとの注意書きを、総譜出版の際仏語で書き加えた)

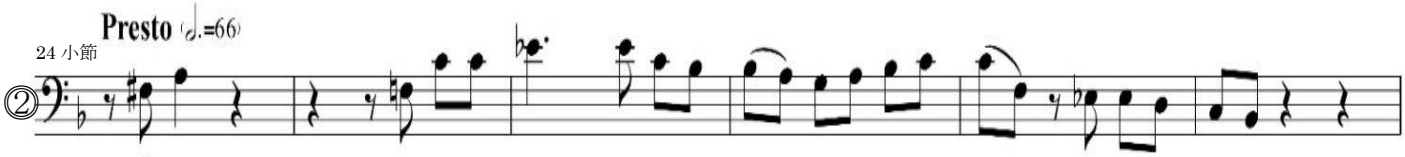
**"この音"**は、後に**バリトンの Rec.が初めて登場する** "Oh Freunde nicht **diese Töne**；お～友よ**！ この**(*絶望的政治情勢を表す汚い*)**音**ではない" においても、直前に 4 楽章冒頭の(*絶望の*)*ファンファーレ* を**再現**(209 小節～)させ、続いてほぼ同じ形の **Rec.**に、今度は**初めて**上記**歌詞を与え、冒頭と同じく絶望的政治の流れを***直接*** ドイツ語により**厳しく拒絶させている。**

彼は、このバリトン独唱で命令調に歌われる厳しいメッセージに強烈な印象を与えるためか、当初年月をかけて周到に用意してきた 4 楽章冒頭部の、上記**最重要の歌詞**(主張)の一部を、後の主部で歌われるバリトンの Rec.に任せ、冒頭部のチェロ・バスの Rec.に直接用意した**言葉**は最終的にすべて削除し、**オーケストラ演奏だけでその主張を物語る、**当時流行していた**器楽レシタティーヴォ形式により、主張を展開した。**

当然バリトンの Rec.も、**絶望的政治の流れを強烈に拒絶する**ため、**極めて速く厳しいテンポ**♩.=66 のままの **Rec.**で歌うよう意図されている。今まで、この事実を見過ごしていた多くの独唱者によって、このバリトンの Rec.は、本来の**絶望**(拒絶)！とは全く無縁のゆったりとしたテンポで、美声をひけらかすように朗々と歌われてきた。

②せっかくのフランス革命勝利(1799 年)も、その後の上記古い特権階級の復権や、自由の剥奪、相変わらずの数多い戦争等、当時**彼を苛立たせていた多くの政治的事象** ⇒ この音(絶望を思い起こさせる**汚い音**) ⇒ *強烈な速さと叫びによりそれらを完全粉砕！*⇒ 少しでも**テンポが遅くなれば、この叫びの効力は減ずる(逆にこの叫びの効力が強ければ強いほど、それを強烈に拒絶することにより到達し得る歓喜は爆発的となる)！⇒*故に絶対に遅くするな*** *(彼はこのように奏者に命じ、総譜にも敢えて注意書きした)!!*

次に全く同じファンファーレで ***絶望の世*** を表現し、それを拒絶した後、
***"今日は祝祭日(革命日)だ。歌い踊り自由への解放を祝おう！"***




*(拒絶!)*　友(も)よ　今日 は 祝(く) 祭(い)日歌 (た)い 踊り い わー お う

Heute ist ein feierlicher Tag. Meine Freunde dieser sei gefeiert durch Gesang und Tanz

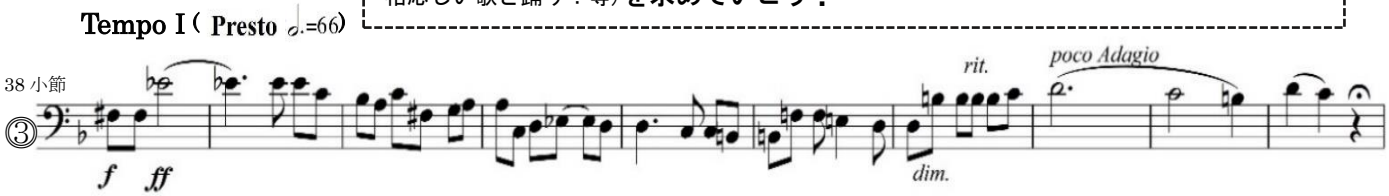
**歌詞の背後にあるベートーフン、シラーに共通する政治思想との関係；当時の革命は、いきなり流血騒ぎが起こった訳ではなく、自由を祝う祝祭として始まり、その中で自由(特権階級支配からの等)に向けて歌い発展していった。よく知られたメロディを基に、毎日のように自由に寄せる歌が生まれ、それは民衆の共有財産となり・・・・** 注）Dieter Hildebrandt 著"Die Neunte"より

ベートーヴェンは、人類が目指す理想郷(エリージウム)到達への必須要件として、前記2つの Rec.による当時の政治事象に対する厳しい拒絶に続き、理想郷到達への妨げとなる人間の生き様にも言及した。その例として、彼はそれまでにほぼ完成していた 1～3 楽章を利用し、それら 3 つの楽章の冒頭部数小節を順次提示した後、チェロとコントラバスに与えられた Rec.の歌詞(言葉)(下記・後に削除)と旋律により、ことごとく各楽章の有り様を拒絶してみせた。ただ、彼が忌み嫌っていた政治事象とは異なるこれら3つの楽章を、「第九」完成間近に敢えて否定材料として使用した理由は、主に交響曲の全楽章に統一感を与えることにあったと考えられる 注)ノッテボーム著「ベートーフェニアーナ」。

すなわち独唱と合唱を4楽章のメインとして使用するという、当時の交響曲としては例を見ない、交響曲の形態として論争の基になるであろう形式を採用するにあたり、新しい形態の4楽章だけが1～3楽章と乖離することを防ぎ、全楽章に統一感を与えるために各楽章のさわりを4楽章に取り入れたのである(循環形式の交響曲の始祖)。こうして推敲に推敲を重ねて作られた新しい形式の第 4 楽章により、諸々の絶望的状況の拒絶完遂の暁に、初めて理想郷へ到達するとする、4 楽章形式の堂々たる交響曲が誕生した。

**1 楽章冒頭部 8 小節後**

1 楽章冒頭部が始まると、その音楽ではなく、もっと**喜びに繋がる快い音楽**(祝祭に相応しい歌と踊り？等)**を求めていこう！**



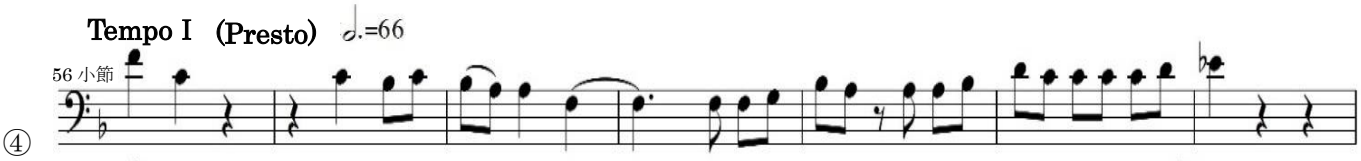

ちが う ー！ これじゃ な - いわたし がほしい ーの は なにー かべつー の ここ ろよいも の な の だー

O nein! dieses nicht, etwas anderes (gefälliges) ist es, (was) ich fordere ●快いもの；平和で平等に繋がる祝祭の歌や踊り？

**2楽章冒頭部8小節後**

●音楽的には素晴らしい楽章だが、scherzo の文字通り意味するような、*軽々しい*

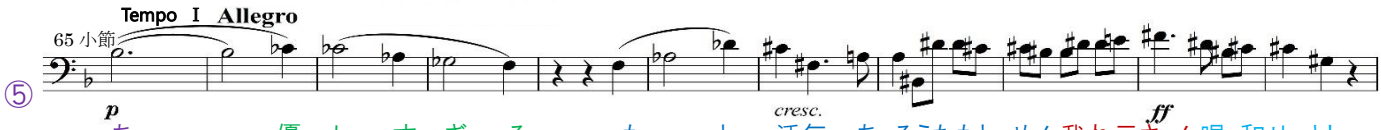
*浮かれた世の中ではなく、少しでも明るく希望溢れるより良き世の中を願う！*




(これも) ダメだ た わむ れるな も ーっ と 明か るく う つ く しき 良き 世ー を

Auch dieses nicht, (das ist) nur Possen, (sondern nur) etwas heiter, etwas schöners und bessers

**3 楽章冒頭部 2 小節後**

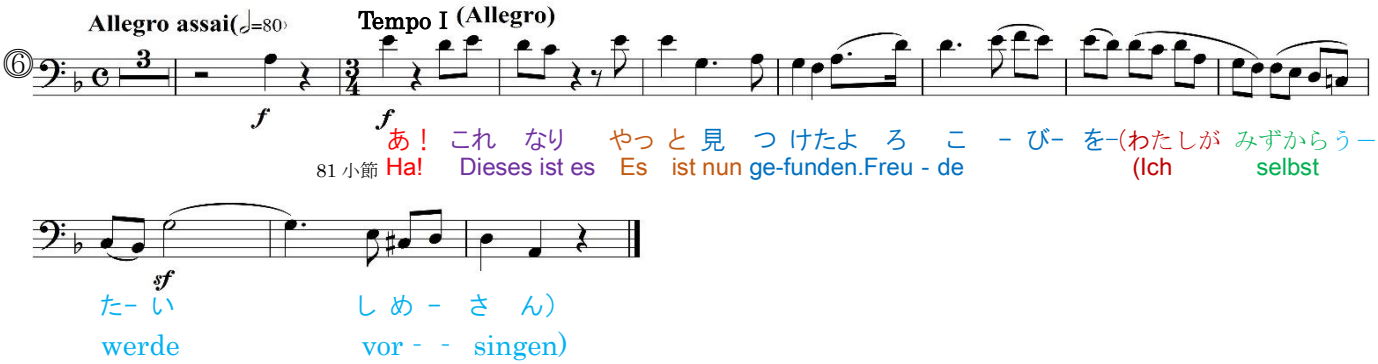



あ ー 優さ し す ぎ る も ー っと 活気 あ るうたもと めん我れ示さ-ん唱-和せ よ!

Auch dieses (nicht), es ist zu zärt(lich), etwas (aufgewecktes?) muss man suchen. Ich werde sehn dass ich selbst euch etwas vorsinge als-dann stimmt nur nach.

**4 楽章冒頭 4 小節後**

死の半年前(1826 年 9 月末)、この曲をウィルヘルム 3 世へ献呈するため新たに写譜された総譜に、ベートーフン自身が最後の修正を施した。その際、Tempo I (Presto)を消し Allegro、すなわちやや遅めのテンポに直した。




あ！ これ なり やっ と 見 つ けたよ ろ こ - び- を-(わたしが みずからう ー

Ha! Dieses ist es Es ist nun ge-funden.Freu - de (Ich selbst

た- い し め - さ ん)

werde vor - - singen)